

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成19年10月11日(2007.10.11)

【公開番号】特開2005-96462(P2005-96462A)

【公開日】平成17年4月14日(2005.4.14)

【年通号数】公開・登録公報2005-015

【出願番号】特願2004-291960(P2004-291960)

【国際特許分類】

B 2 9 D 30/12 (2006.01)

【F I】

B 2 9 D 30/12

【手続補正書】

【提出日】平成19年8月29日(2007.8.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

環状膜を備えていて、タイヤを成形するためのコアを製造する方法であって、回転成形型(2)に膜を設置する工程と、融点が80と250との間である可融性材料(6)を前記膜の内部に液体状態で導入する工程と、

本質的に固体状態の前記材料の堅い皮殻(7)よりなる中空のコアを得るようにコアを回転成形する工程とを備えている、コアを製造する方法。

【請求項2】

前記可融性材料は、100と160との間の融点を有する金属または金属合金である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記堅い皮殻が形成されたら、膜の内側に負の圧力を加える工程を更に備えている、先行請求項のうちのいずれか1項に記載の方法。

【請求項4】

先行請求項のうちのいずれか1項によるコアを製造する方法を備えているタイヤを製造する方法。

【請求項5】

温度が前記可融性材料の前記融点より高い熱伝達流体(11)で前記コアが満たされる工程を更に備えている、請求項4に記載のタイヤを製造する方法。

【請求項6】

可融性材料の圧力は、タイヤの最終成形中、コアの体積を増すように制御される、請求項5に記載のタイヤを製造する方法。

【請求項7】

膜を少なくとも部分的に空にする工程と、コアを成形されたタイヤから取出す工程とを更に備えている、請求項4ないし6のうちのいずれか1項に記載のタイヤを製造する方法。

【請求項8】

熱伝達流体(11)は、コア(1)の堅い皮殻(7)を形成するものと本質的に同じ可融性材料(6)である、請求項4ないし7のうちのいずれか1項に記載のタイヤを製造す

る方法。

【請求項 9】

リム（3）を備えており、前記リムは可撓性膜を支持する、請求項4ないし8のうちのいずれか1項に記載の方法を使用してタイヤを製造する装置であって、前記膜の下に堅い皮殻（7）を形成するように可融性材料を前記膜内に分布することを可能にする回転成形手段を備えている、タイヤを製造する装置。